



たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

CWS JAPAN

Church World Service

NEWSLETTER No. 49



アフガニスタン・バーミヤンの干ばつ被害軽減のための農業支援事業が終了しました

2020年10月発行

2019年6月8日から開始した当事業は、気候変動に伴う前例のない積雪と新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、当初計画より期間を延長し、最終的に2020年5月31日に事業を終了しました。

本事業では、2017-18年の冬期降雨量の減少により発生した大規模な干ばつ被害への対応として、バーミヤン州バーミヤン中部地域に暮らす被災農家延べ1,025世帯への灌漑設備の整備並びに代替生計手段である養鶏の技術支援を実施しました。灌漑設備の整備を通じて、限られた水資源が有効活用されることで農地が回復に寄与しました。また、キャッシュフォーワークを通して、干ばつの影響により買い控えられていた食糧を中心とした日常必需品を購入することができたことで、食の安全保障を守ることができました。そして、養鶏事業により代替生計手段が生まれ、干ばつによる収入減の影響を軽減することができました。

事業終了時に行われた調査活動の結果、次の効果が確認できました。収入と家畜保有数の変化を確認する調査では、回答者の約94%が世帯収入が大幅に増加したと回答し、残りの約6%が世帯収入がわずかに増加したと回答しました。また、100%の回答者が保有する家畜の数が増加したと回答しました。家畜保有数の変化を前年比で見ると、牛が1.9倍、ヤギまたは羊が3.4倍、馬、ラバ等が1.8倍増加し、本事業の養鶏事業の効果もあり、鶏が前年比で8.2倍増加しました。食生活の改善度を確認する調査では、対象世帯の必要最低限の食糧ニーズを満たすことができるようになったことがわかりました。

(次項へつづく)

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、ご理解をいただき、ありがとうございます。

Facebook
twitter
instagramでも
情報発信しています！

最後のページを
ご確認ください□

(裨益者に向けた
養鶏研修の様子)



特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

✉ public@cwsjapan.jp
☎ 03-6457-6840

事業の成果のなかで、意図していたインパクトとしては、対象コミュニティによる水へのアクセスが改善したことで、水不足によるコミュニティ間の緊張が緩和されたことが挙げられます。事業前は、水不足により水資源管理をめぐる問題や農作業の非効率から、対象コミュニティの間で不和や精神的ストレスが発生していました。また、女性や子どもを中心とした水汲み作業は日常的な負担となっていました。干ばつの影響でその負荷が一層重いものになっていました。これらの問題が、水へのアクセスが大幅に改善されたことで、解消されたことは当事業のインパクトの一つです。

意図していなかったインパクトとしては、主に女性裨益者への影響です。事業終了時のインタビューによると、養鶏事業を通じた女性裨益者の事業への参加が、彼女たちの自信向上に繋がり、コミュニティレベルでの会議等への参加、会議での発言数、意思決定に参加する機会が増えたことがわかりました。また、これまで限定的だった、対象世帯内の現金収入や世帯収入のアクセスまたは管理に係る権限が女性の裨益者に一部または全面的に移譲されたり、女性の経済活動への参画の機会が増えたりしたことにより、家庭内暴力のリスクが軽減されたといった回答も得ることができました。本事業を通して養鶏といった具体的な技術を習得し、それを他者に教えることや、経済活動による世帯収入の貢献ができるようになったことで、自尊心の向上といった内面的な変化に繋がった側面もあります。これらのインパクトは意図していた干ばつ等の災害へのコミュニティのレジリエンス向上には直接的に貢献しないものの、社会経済的に脆弱な立場に置かれやすい対象地域の女性たちのエンパワーメントに繋がったという点で重要なインパクトだったと考えています。

本事業はこれで終了となりますが、今後、当地域及び周辺地域のコロナを含む複合災害による脆弱なコミュニティへの影響を注視する必要がありますと考えています。現在、CWS Japanは同地域にて国内避難民及び帰還民に対する新型コロナ感染症対策緊急支援を実施していますが、気候変動に伴う予期できない突発的な自然災害も発生し、政情不安、コロ

ナ、干ばつ/洪水等といった複合災害により、同地及びほかの地域での被害の更なる深刻化が予測されるため、引き続き、状況を注視し行きたいと思いをします。

これまでの皆様からの温かいご支援とご理解に感謝し、引き続き、活動に邁進してまいります。

(文：プログラム・オフィサー 西澤紫乃)

令和2年7月豪雨災害支援報告

長引く梅雨の終わり、7月3日から梅雨前線の影響によって多数の線状降水帯が九州で発生。その後、中部地方まで広がり、集中豪雨が各地で約1カ月続きました。特に、熊本県南部では、局地的に記録的な大雨になりました。10月5日までに発表された熊本県の被害状況は、住宅全半壊数4600棟以上、一部損壊1400棟以上、床上浸水1500棟以上となっています。今年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地方自治体によって、県外からの支援団体・ボランティアの来県が制限されました。そこで、ニュースレター8月号でお知らせしていたとおり、CWS Japanが事務局を務めるACTジャパン・フォーラムは、メンバー団体であるYWCA(熊本)を通して、発災直後から2カ月間の緊急期に災害人道支援を行いました。

熊本YWCAには、昨年10月、自然災害が続く九州地方の関係者に面会するため出張した際に、同団体が運営するカフェの開店初日に訪問し、代表の吉村千恵さんから熊本地震の時の支援経験を伺い、今後の災害発生時の連携を話し合っていました。それが功を奏し、早速、今夏の災害発生時に熊本YWCAと素早く連携することが叶いました。



(被災地でボランティアの方々)

熊本YWCAは最も被害が甚大である人吉市を中心に、複数の地区にまたがって、地域住民、障がい者、外国人世帯に対して、緊急支援物資配布や浸水した家屋復旧作業を行い、さらに被災した球磨病院の入院患者や障がい者の他地域医療機関への避難など多岐にわたる支援を行いました。その活動には、多様な地元団体・施設・自治会との連携協力があり、県外からの外部支援団体が一朝一夕には得難い地元ネットワークと平時からの信頼関係があるからこそ成し得たことでした。迅速に支援を必要としている方々にアクセスでき、生活再建のお手伝いをするためには、こうした地元のネットワークが重要なカギとなります。

特筆すべきは、現在も活動が継続されている大垣地区に対する支援です。この地区は屋根まで浸水し、全戸が公費解体対象となりましたが、公費解体を望まない被災住民のために、熊本YWCAは約50世帯の家屋の壁を撤去し、泥かきと消毒作業を行いました。その支援活動には、多くの熊本在住留学生や外国人グループの参加があることが特徴的です。また、これらの支援活動に加え、農作業の手伝いや地元の方を講師とした竹細工教室の開催を通して、地域住民の方々とボランティアとの交流の機会を創出しています。

これらの大垣地区における「災害支援交流」は、今後の復興に向け、被災地をフィールドにしたイベント開催、子供たちによる交流キャンプ、外国人支援、物品販売等、熊本YWCAの既存の活動に組み込まれ、継続されていくことが計画されています。熊本YWCAはこの災害人道支援によって、この地域に正に種を落としたのだと思います。

(文：ディレクター 牧由希子)

2020年度トヨタ財団国内助成プログラム助成対象案件に採択されました

この度、2020年10月から1年間の調査事業として、トヨタ財団よりCWS Japanの案件が助成対象として選定されました。2020年度の国内助成プログラムは、「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ地域に開かれた活力ある課題解決の仕組みを通じて一」というテーマを掲げて公募が開始されました。CWS Japanでは、下記の調査事業を申請した結果、助成対象として採用され、今月から事業を開始する運びとなりました。

【事業名】誰一人取り残さないレジリエントな多文化共生コミュニティ新宿区をめざして

【事業概要】これまでの国内外災害支援の経験を通じて、災害時において社会的に脆弱な人々が公的支援から取り残されるという問題意識を持つようになった。そこで、災害時に人種、宗教、文化、社会的/経済的地位等の違いに拘わらず、誰一人取り残されない支援の仕組みを構築すべく、本調査プロジェクトを実施する。対象地域は、首都直下型地震が起るとされている東京都で、且つ外国人住民の割合が多い新宿区内とする。

CWS Japanが持つ多様なネットワーク、他の支援団体や地域との連携を通して、本取り組みのステークホルダーにとって実りあるものにしていけるよう努力と工夫を重ねていきたいと思えます。活動の進捗については、ニュースレターでもお伝えしていきます。皆さまのご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(文：プログラム・オフィサー 西澤紫乃)



CWSJapan



@Japan_CWS



cws_japan

日々の活動や事業の詳細や支援先の様子などを写真(ときどき動画)でお伝えしています！